

声 Voice

忘れていた防災・節電の意識

囑託職員 曳地 奈穂子

(北海道 46)

6日の未明3時過ぎ、大きな揺れを感じ跳び起きた。北海道を襲った大地震。私の住む道北の市は震度4だった。夜中でもかも久々の大きな地震だっただけに、しばらく胸の動悸がおさまらなかつた。

東日本大震災のあと、福島県郡山市から実家のある北海道に避難、移住して7年。地震の少ない地域に住んでいることに慣れ、防災への意識が低くなっていくことを実感した。家具が倒れないよう補強したり、水や電池を備蓄したりすることも不十分だった。反省しきりである。

わが家は停電をまる一日体験した。ソーラー発電を設置している家に明かりがともっているのを見て、うらやましくなった。東日本大震災のあとの計画停電の時も思ったが、もっと日々節電を心がけるべきだったと後悔した。湯水のように電気を使い、それが当たり前の生活を見直すべきだと改めて感じる。

大量に電力を使うことを前提として、世論が安易に「だから原発を再稼働」とならず、今回の地震をきっかけに人々は節電を心がけてほしい。また太陽光パネルの普及など再生可能エネルギー推進の声が高まってくれば、と願う。